

令和 7 年度 学校 経営 方針

1 校 訓 「 アイディア おもいやり ばりき 」

【青葉の精神】 ～ 夢を描き 高い志をもって向かう 強くしなやかな若竹の心 ～
○ 若竹のように すくすく伸びる 素直な心
○ 若竹のように 仲間と共に育つ 優しい心
○ 若竹のように 風に負けない 強くしなやかな心

2 教育目標 知恵をしばり 力を合わせ とことんやり抜く力を備えた児童の育成

3 目指す子供像 確かな学力《知》… 自ら目標を立て 学び合い やり遂げる子 豊かな心 《徳》… 自他を大切にし 工夫して 生活をよりよくする子 健やかな体《体》… 運動に親しみ 健康で安全に たくましく生きる子

4 キャッチフレーズ 児童「よく見て よく聴いて よく考えて よし行くぞ 青葉っ子！」 職員「TCC（チーム・チャレンジ・チェンジ）」

5 経営理念 （目指す学校像・教師像）

- (1) 全ての児童が、心身共に安全で、安心して生活できる学校でなければならない。
- (2) 全ての児童が、確実に力を付け、豊かな人生を送れるように最善を尽す学校でなければならない。
- (3) 情熱をもち、児童の成長に立ち会えることを心の底から喜べる教職員でなければならない。

6 経営方針

関係法規、学習指導要領に則り、県・市教育委員会の方針と学校の実態を踏まえつつ、これまで築き上げた学校の良さを生かしながら、家庭や地域社会と連携・協働し、安全・安心な環境を堅持するとともに、新しい時代に求められる資質・能力を育む教育を推進する。

(1) 安全・安心・健康

児童の安全・安心・健康を最優先事項とし、安全な環境及び危機管理体制を確立するとともに、児童の状態把握に努め、教育活動全体を通して心身の健康を守り育む取組を進める。

(2) 学力

習得・活用・探求の過程において、「知識・技能」を確実に習得させ、「思考力・判断力・表現力等」を育成し、「主体的・能動的に学びに向かう力・人間性」の涵養を図る。

(3) 指導

カリキュラム・マネジメントを進め、児童を誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、児童の多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」を一体的に充実させる。

(4) 評価

客観的事実に基づく検証を重視し、「指導と評価の一体化」を図るとともに、児童の変容を可視化し、児童自身が獲得した資質・能力を認知したり、共有したりできるように工夫する。

(5) 連携・協働

児童のキャリア形成を見通し、市民性（シチズンシップ）の育成を図るため、家庭・地域との連携・協働による多様な学習機会の確保など「社会に開かれた教育課程」を推進する。

7 重点目標

社会の変化（Society 5.0）を見据えた学習指導要領の理念を念頭に、「持続可能な社会の創り手の育成」や「日本社会に根差したウェルビーイング」をコンセプトとして、カリキュラム・マネジメントによる組織的かつ計画的な教育活動の質の向上を図り、本校課題の解決を目指す。

(1) 「安全・安心・健康を守る」【最優先事項】

安全・安心の取組みと健康増進を進め「事故0」「いじめ・不登校0」「虫歯0」を目指す。

- ア 現状を反映した各種管理マニュアルの随時改善と管理徹底（安全管理・いじめ対策等）
- イ 生徒指導体制の確立と家庭・地域・関係機関等との連携（教育相談・ケース会議等）
- ウ 全教育活動を通しての「命の教育」の推進（人権同和教育・道徳教育・SDGs・生活指導）
- エ 「虫歯0」への取組や感染症等対策の徹底（保護者協働・流行性疾患等対策）

(2) 「着実に学力を向上させる」【最重点課題】

「青葉っ子学力向上プラン」の推進により、アンダーアチーバー0を目指す。

- ア 「学習者主体の授業」による学びの質の向上（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実）
- イ 生徒指導の視点を重視した授業改善（学習の基本過程「青葉モデル」）
- ウ 安心・安全な「学習集団」づくりと非認知能力（学びに向かう力、人間性等）の向上
- エ 「学習者主体」の視点を重視した授業研究の充実と授業理解度の向上（8割）

(3) 「指導を揃える」

「チーム青葉」を基盤に6年間を見通した組織体制の充実と効果的・効率的運営を目指す。

- ア 教育課程の実施状況の客観的把握と課題共有
- イ 指導内容・指導方法・指導重点を揃えた「一事徹底」
- ウ エビデンス（根拠・証拠）とアセスメント（客観的診断・評価）を重視したPDCAサイクル
- エ 組織体制の機能の整理と優先課題の焦点化による効果的・効率的な業務改善

(4) 「個々の発達を支える」

個に応じた指導や支援を充実させ、将来を見通した自立支援を目指す。

- ア 特別な配慮を要する児童への適切な支援（個別支援計画、「学びの場」の段階的な検討）
- イ インクルーシブ教育・ユニバーサルデザインへの取組
- ウ 特別活動を要としたキャリア教育（キャリア・パスポートの活用）
- エ 自己指導能力・コミュニケーション能力の育成（SGE・児童会活動・異年齢活動の充実）
- オ 年間を通し個の目標達成に取り組む体力向上への取組（ばりきタイム）

(5) 「未来を切り拓く力を付ける」

児童が様々な社会変化に向き合い、課題解決できる対応力の育成を目指す。

- ア 各教科等で共通する情報処理・整理・分析・まとめ・表現等のICT活用
- イ 身近な社会に着目したSDGs達成のためのESD（持続可能な開発のための教育）の推進

(6) 「地域ぐるみで育てる」

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を家庭・地域と共有し、積極的な連携を図り、それぞれが機能を発揮できる環境を目指す。

- ア 地域と共に教育する「社会に開かれた教育課程」の推進（郷土・文化・技能教育等）
- イ 家庭・地域の支援による児童の安全確保（青葉サポーター（仮称））
- ウ 社会教育関係団体等（学校運営協議会、PTA、子ども会、公民館等）との連携

(7) 「力を磨く」

教師が学びのモデルとなり、時代に応じた指導力の積極的な習得を目指す。

- ア 実態に即し実践に還元できる職員研修の推進（研究テーマ・校内研修・個人研修等）
- イ 1つ上のステージを目指した自己研鑽のための研修の充実（校外研修・教育論文等）